来賓ご挨拶

掲載順は会場でご挨拶された順

西村 康稔経済産業大臣 ご挨拶

本日、日本自動車会議所の定時総会、そして総会懇親会が盛大に執り行われますことを心からお祝い申し上げます。

今国会はまさに自動車国会と言ってもいいほど、与野党を超えて毎日のように自動車をはじめ電池や燃料についてさまざまな質問を受けました。地殻変動ともいうべき大きな変化が起きている中で、自動車産業が引き続き日本の中核であってもらいたいという、そんな思いが投げ掛けられたのだと思います。私自身も大きな期待を持っており、さまざまな変化球を乗り越えていくための取り組みを、官民挙げて、そして政府与党を挙げて実施していかなければなりません。

まさにEVシフトが想定以上のスピードで進んでいます。世界ではEVが新車販売の10％を占めるように変化しており、自動運転もあちらこちらで実証実験が行われています。日本でもこうした動きが進んでおり、先般は、トヨタ自動車、ダイムラートラック、日野自動車、三菱ふそうトラック・バスの協業が発表されました。また、経済産業省でもEV向け蓄電池の技術開発や設備投資を後押しするために、トヨタやホンダなどに助成などの支援をしていきます。これまでにない発想によるグローバルかつ大胆な投資こそがイノベーションをおこすと思いますので、全固体電池の開発加速に期待しています。

EV開発に向けたソニーとホンダの協業、あるいは九州でEVバスに挑戦するスタートアップなどさまざまな動きが出ています。先般、福井県永平寺町では日本初のレベル４の自動運転サービスを開始し、これを皮切りに全国50カ所で展開されていきます。

変革を乗り越えて、日本の自動車産業が世界をリードしていただきたいと思いますし、日本経済の中核であり続けていただきたい。それをおこしていくのは、まさに技術力。これまでの技術力を生かしながらも、これまでの発想にとらわれないオープンイノベーションであり、まさにアニマルスピリットです。日本を挙げて、このアニマルスピリットをかき立てて、未来への挑戦をしていければと思います。経産省としても全力で応援をしていきたいと思います。

自動車産業のますますのご発展を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。共に頑張っていきましょう。

懇親会場スナップ

懇親会には、国会議員をはじめ、会員、関係団体・企業、関係省庁、メディアなど大勢の関係者が出席

西田 昭二国土交通大臣政務官 ご挨拶

本日は日本自動車会議所定時総会ならびに総会懇親会が盛会裏に開催されますことを、心からお祝いを申し上げますとともに、日頃から国土交通行政に多大なるご理解、ご協力、ご支援を賜りますことに感謝・御礼を申し上げます。

国土交通省では自動車関連産業をめぐる環境の変化に対応し、自動車分野のGXやDXを強力に推進するとともに、安全安心なクルマ社会の実現と、自動車関連産業のより一層の発展に向け、さまざまな施策に取り組んでいるところです。具体的には、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、バスやタクシー、トラックなどの商用電動車の導入について、事業者の皆さまのニーズにしっかりと応えることができるよう、経済産業省をはじめ関係省庁とも連携し、今年度は大幅に支援を拡充し自動車分野のGX推進に取り組んでいるところです。

また、自動運転につきましては、将来の地域の交通手段の担い手として期待されており、自動運転サービスを2025年度には50カ所、2027年度には100カ所での実施を目指し、実証事業に取り組む地域を指定していくことにしています。

これに加え、自動車の検査登録手続きのデジタル化にも取り組んでおり、本年１月には電子車検証の交付を開始しました。引き続き自動車関連情報や手続きのデジタル化を進め、自動車ディーラーや整備事業者をはじめとする皆さまの利便性向上を図っていきます。

また、現在、各業界において人手不足が問題となっていますが、特に物流分野においてトラックドライバーの不足が深刻です。2024年度からはトラックドライバーに新たな時間外労働の上限規制が適用され、いわゆる物流2024年問題による影響が懸念されており、こうした状況に対し岸田総理からの指示により、６月２日には物流革新に向けた政策パッケージ「物流の適正化・生産性向上に向けた荷主事業者・物流事業者の取組に関するガイドライン」が取りまとめられました。国土交通省では、経済産業省など関係省庁と連携し、取引環境の適正化や労働環境の改善などを通じた担い手の確保、生産性の向上など対策にスピード感をもって取り組んでいくことにしています。

同じく人手不足が深刻なバス・タクシー業界や自動車整備業界においても、事業者による人材確保の取り組みに対する支援を充実させていくことにしており、業界の皆さまとともに自動車関連産業の魅力の向上に取り組んでいきたいと思います。

また、自動車事故防止対策や事故被害者の方々への支援について、昨年度に自動車損害賠償保障法等を改正し、取り組みをより一層拡充しています。安全安心なクルマ社会の実現に向け、皆さまとしっかりと連携して取り組んでまいります。

結びに、日本自動車会議所のますますのご発展と、本日ご出席の皆さまのご健勝・ご活躍を祈念申し上げ、ご挨拶の言葉といたします。

来賓のご挨拶に耳を傾ける出席者の皆さん

細田 博之衆議院議長 ご挨拶

日本自動車会議所の総会が無事に終了し、誠におめでとうございます。

内山田会長をはじめ、これまでも税制の議論では大変なご苦労をされてこられました。特に消費税率アップに伴う自動車税制の見直しでは、自動車取得税は廃止することになりましたが、環境性能などいろいろな観点から見直しが行われました。抜本見直しはまだ道半ばだと思いますが、今後、カーボンニュートラル実現に向けたＧＸなどによって世界が変わっていくわけですから、乗用車やトラックなどどこまで電動化を進めていくのか、そういった展望とともに税制を変えていく必要があります。もちろん、クルマの環境対応も考えていかなければなりません。

私は、自動車会議所は重大な使命を課せられていると思います。ぜひ頑張っていただきたい。

今後ともいろいろな意味でご支援・ご指導をよろしくお願いし、さらなる発展をお祈り申し上げます。

高市 早苗経済安全保障担当大臣 ご挨拶

本日は日本自動車会議所定時総会のご盛会、誠におめでとうございます。

内山田会長はじめ皆さまの大変なご努力で、新たな製品・サービスの開発、そして新たな生産方式、また販路の開拓などによって、日本経済が元気になり、イノベーションが生み出されています。心より感謝を申し上げます。

私は今、経済安全保障担当大臣ですが、昨年の12月に半導体、永久磁石、蓄電池、産業用ロボット、天然ガスなど「特定重要物資」として11物資を指定しました。予算も１兆300億円余りを確保し、サプライチェーンの強靭化には引き続き取り組んでいきます。現在、サプライチェーン調査の第二弾を実施するように各省にお願いしましたので、皆さまのお知恵もいただければと思います。

自動運転については、科学技術政策担当大臣としてＳＩＰ「戦略的イノベーション創造プログラム」でも応援をしており、これからレベル４、レベル５を目指していくことを考えると、測位が正確であることはかなり大事なことであると考えています。ちなみに、私は宇宙政策担当大臣も担当しており、今の４機体制で運用している準天頂衛星「みちびき」を、何としても来年度までに７機体制にしていく目標を掲げているところです。７機体制を１日も早く実現して、自動運転も安心していただけるような体制をつくっていきたいと思います。

これからもご指導、よろしくお願い申し上げますとともに、皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

松本 剛明総務大臣 ご挨拶

自動車は経済の面からも、暮らしの面からも、大変重要な役割を果たしていると感じていますし、地方をお預かりする私ども総務省の立場からすると、クルマが暮らしと仕事に欠くことのできないモノであるということは申し上げるまでもありません。わが国でクルマをしっかりとつくっていただいて、しっかりと利用できる環境をつくる。他方で、地方財源の地方税が、どのような形で皆さまと調和してうまくいくかということを、一生懸命知恵を絞っていかなければならないと思っています。

私ども岸田内閣では「新しい資本主義の実現」を掲げ、さまざまな政策を前に進めていますが、資本主義を超える制度はありません。主役は民であり、市場であると同時に、本当に官民が連携しなければ解決できない社会的課題も大きくなってきている中で、これまでの官か民かではなく、官も民も連携していくことが主役だと、私も学んだところです。

わが国を支える大切な分野である自動車関連の皆

さまと私どもも、また政府もしっかりと連携をしてやらせていただきたい。その一翼を担えるように、私も精進してまいりたいと思いますので、ご指導をよろしくお願いをしつつ、ご尽力いただいております役員の皆さまに感謝申し上げるとともに、わが国と自動車産業の発展をお祈りしてご挨拶にしたいと思います。

加藤 勝信厚生労働大臣 ご挨拶

まずは何と言っても、コロナの関係では皆さまには大変ご協力いただきました。また経営面や雇用面で厳しいこともあったと思いますが、それを乗り越えていただきましたことに、心から感謝申し上げたいと思います。

また、春闘をはじめ賃上げに向けて本当に力強く推進をしていただく、そして特に人へ投資いただく、こうしたことを通じて構造的な賃上げがしっかりと進んでいく、そうしたことを通じて経済が成長していく、こういう流れをしっかりとつくっていただきたいと思っています。

実は私、３回目の厚労大臣をやっておりますが、最初に担当させていただいたときに「働き方改革関連法案」を成立していただきました。

すでに製造業の皆さまには施行されていますが、トラック、バス、ハイヤー・タクシーといった運輸関連については、来年４月から残業規制などが適用されることになります。（ドライバーの時間外労働時間の上限が年960時間に制限されることにより）現在、物流面でさまざまな制約あるいは課題が指摘されていますが、日本自動車会議所の関係の中には運輸サービスを発注する方々も大勢いらっしゃると思います。荷待ち時間の合理化などさまざまな対応をしていただきながら、この960時間に向けて、それが現場において円滑に施行できるように多くの皆さまのご協力をお願いいたします。

今日ご参列の皆さまには、まさに日本経済のど真ん中を支えていただいているわけですが、それぞれの産業に携わって働く皆さまが誇りを持って健康に働いていただける、こうした環境をしっかりつくっていただきたいと思います。

わが国のさらなる成長、発展に向けてお力をいただきますことを心からお願いを申し上げ、お祝いとさせていただきたいと思います。

後藤 茂之経済再生担当大臣 ご挨拶

４年ぶりの懇親会開催ということですが、未知のウイルスとの戦いでは皆さまに本当にお世話になりました。やっと一つの山を越えた状況にあり、これからはしっかりと経済の再生に全力で取り組んでいくという気持ちでいます。

自動車産業を巡る状況については、先ほどからいろいろとお話がありましたけれども、本当に構造的な大変動期・変革期を迎えていると思います。これまでも、そしてこれからも、日本の産業の中心として頑張っていただけるように、官民が連携をしてしっかりと取り組んでいく必要があると思っています。

私の仕事に関連しては、まず今年は賃上げ率が30年ぶりの高水準となっており、中小企業においても３％を超える水準を確保できるようになりました。サプライチェーン全体の中で適切な価格をつけて、そして賃金やいろいろな支払いにしっかりと向けていただく。物価と賃金の好循環、そしてその後、積極的な投資を進めることによって生産性を高め、成長と分配の好循環、新しい資本主義をしっかりと前進させていくことが必要だと思っています。

そのためには、自動車産業にこれからも日本を引っ張っていってもらいたい。その気持ちでいっぱいです。

最後になりますが、今後の皆さまのますますのご発展を心よりお祈り申し上げて、私からのお祝いとお礼のご挨拶にさせていただきます。

大勢の出席者を前に挨拶する内山田竹志会長（写真右）

金子直幹副会長（日本自動車販売協会連合会会長）の「乾杯」の発声で懇親会が始まる。金子副会長の左は高らかに杯を上げる竹林武一副会長（日本自動車整備振興会連合会会長）

内山田会長と懇談する塩谷立衆議院議員（自動車議連幹事長、自民党税制調査会小委員長、写真右）

懇談する（左から）西村康稔経済産業大臣、甘利明衆議院議員（自動車議連「モビリティを軸に成長する未来社会を考える会」会長、自民党税制調査会顧問）、内山田会長

歓談する山口那津男参議院議員（公明党代表、写真左）と竹林副会長

和やかに懇談する（左から）西田昭二国土交通大臣政務官、関芳弘衆議院議員、宮下一郎衆議院議員、尾身朝子衆議院議員、山際大志郎衆議院議員（自動車議連事務局次長）

記念撮影に応じる（左から）金子副会長、片山さつき参議院議員、竹林副会長、赤池誠章参議院議員